

大震災を口実にした首切りは許さない

春闘に自粛はない、要求実現へ向け闘おう

東日本大震災の被災地域の皆様へ

3月11日午後、三陸沖を震源とする観測史上最大のマグニチュード9.0の地震による「東日本大震災」が発生した。東北地方を中心に壊滅的な打撃を受け、交通・通信・医療・住居などのライフラインが一瞬で奪われ、死者、行方不明者は3万人以上と言われ、捜索が続いています。

の総力を挙げ支援する決意です。一方、東京電力福島原子力発電所も津波による被害を受け、大量の放射線放出・飛散を止めることができず危険な状態となつています。私たちは、原子力優先のエネルギー政策の転換と原発の即時停止と建設中止を求め、地元住民や原発で働く労働者の安全を確保する取組みを強化します。

11けんり春闘がスタート

(上右) 経団連前で春闘決起集会、(上左) 東電にむけてデモ、4月6日、(下) 2・14経団連決起集会

2月1日、新橋・交通ビルホールに約130人の仲間が集結した、11けんり春闘実行委員会発足集会と学習会で、連合が定期昇給維



持と一時金の上積み等重点要求とする中、財界の総人件費抑制攻撃を打破し、大幅に賃金引上げ誰もが「生活できる賃金」の獲得を目指す。闘いに負けぬ事が確認され、春闘勝利に向け本格的闘いがスタートしています。



日本経団連に申し入れをする瀬瀬東京全労協議長 (4月6日)

全労協

TOKYO ZENROKYO

全国労働組合連絡協議会東京協議会

東京都港区新橋5-15-5 交通ビル 3F

2011.4.30

No.42

TEL. 03-5403-1650

FAX. 03-5403-1653

発行人 瀬瀬 朗

定価 1部 10円

(組合員の購読料は組合費の中に含む)

2月14日には、第一波決起集会を経団連前で開催し、不況が長期化する中、企業第一・利益第一という姿勢を転換し、今こそ大企業がこれまで溜め込んだ内部留保金を「雇用と賃上げのために活用すること」を強く求めてきました。不当にも経団連はこうした我々の切実な要請を受けることなく門前払いしましたが、怯むことなく引き続き経団連に対する闘いを強化すること参加者全員で確認しています。

東日本大震災の発生により様々な取組みが自粛される中、震災や計画停電を理由として雇用問題も深刻な状況であり、我々が今春闘で要求実現に向けて闘うことが、被災者を元気づけ、被災者支援に繋がることの確認の下、4月6日、11春闘勝利・中央総行動は、「総人件費抑制攻撃反対」「生活できる賃金引き上げを」の実現を目指し、各労組や職場、地域から約3,000人の仲間が集結し、生きる権

利、働く権利を踏みにじってきている経団連に要求をぶつけました。そして、闘いの現場・激励行動として郵政本社前と首都高速会社前とそれぞれ現場で働く労働者に激励と連帯の社前行動を貫徹し、厚生労働省への要請行動では「震災・原発被災住民の救済」「有期契約労働の規制」を求めてきています。当日の最後として、日比谷公園より、「すべての原発を即時停止し廃炉せよ」「原発依存のエネルギー政策の転換をせよ」「震災を理由にしたリストラ、首切りはやめろ！」などのスローガンを掲げ、経産省・東京電力本社を回りデモ行

日本経済は大企業中心に、リーマンショックを乗り越え業績はV字回復を達成しながらも、リストラと労働者の非正規化による総人件費抑制と、下請け企業へのコスト削減攻撃、利益は内部留保へ貯め込むこと

によって国内需要は回復せず、深刻なデフレ状況が続いています。加えて、公務員制度改革と称する公務員賃金の引き下げと人員削減により賃金の引き下げスパイラルが続いています。失業率は2010年度平均として

進が行われました。中小企業の春闘は闘いが

内部留保を被災者、労働者へ日本経団連に抗議

日本経団連に抗議要請

で5.1%と高止まりしたままで、若年層の失業率は7%台です。生活保護世帯も140万世帯に上り、貧困問題は一向に解決の兆しが見えないでいます。

を理由にしたリストラや首切りを許さず、11春闘後半の取組みを強化していきます。東京全労協は、けんり春闘全国実行委員会に積極的に参加し、大衆行動を中心に取組みを強化し、すべての労働者の仕事を確保、非正規労働者の均等待遇実現、外国人労働者の権利拡大を闘いのスローガンに掲げ、働く者の総団結で「11けんり春闘に勝利しよう！」

4.6 東部けり総行動

よつてたかつて 支えよう 東日本大震災被災者

4月6日東部けり総行動は17労組・ユニオンで1200人の参加で行い、



新小岩駅前て義援金を訴えた(4月6日)

ず朝9時から約1時間J R新小岩駅前、東日本大震災の被災者をよつてた

抗議集会の中、申し入れ団は、当該ユニオンと地元江川川地区労センター・松木事務局長も加わって解雇撤回の申し入れを行った。続いて墨田区緑にあるロンドン工業への申し入れ行動をおこなった。土浦事業所で働く茨城ユニオンの派遣労働者さんの3年以上雇用の派遣法違反で、茨城労働局の是正勧告も無視契約期間中に解雇。団体交渉も拒否。当日は社長は留守。申し入れ団には、地元のみだユニオン岡本事務局長も加わって抗議文と申し入れ文を会社側に手渡した。総行動は錦糸町で総括集会を開き、午後からの中央集会に合流しました。

沖縄平和行進へ 日米同盟深化に 断固反対する

3月30日衆議院、31日参議院で今年度から向こう5年間の「思いやり予算」に関する特別協定が、審議らしい審議が行われぬまま可決された。毎年の額は1881億円→1日5億円



東京労組春闘集会(3月25日)

報告は1時間にわたり、紙面には書ききれないが「基地の受け入れは全国どの自治体も受け入れよう」とない。自分達(本土)がいやなもの(沖縄)に押し付ける。本土の民意は尊重され沖繩の民意が無視されることは沖繩差別とも言うべきものと訴えている。我々はこの言葉と米軍基地の74%が沖繩に押し付けられているという現実を重く受け止めねばならない。

●第82回日比谷メーデー

全力で被災者救援 原発の即時停止を

東日本大震災の被災者の救援・復興とともに連帯し全力をあげよう！
すべての原発を即時停止し廃炉へ、原発依存のエネルギー政策の転換を！

第82回メーデーは、東日本大震災の直後という事態の中で取り組まれます。東

●4.12 南部権利春闘

社会的な連帯を強めよう 止めよう全ての原発を

4月12日、南部権利春闘(南部全労協加盟組合と電検労とで構成)は春闘集会を開催しました。まず南部

原発事故に対する闘いを行おうと提起しました。

続いて東海林智新聞労連委員長からの講演が行われました。当日、新国立劇場とイナックスにおける「労働者性」を争う最高裁判決があり、両方とも労働者性を認める判決が出たというホットな報告から始まり

の深化に断固反対し、今年復興への原動力として、組織された労働者の団結した力を発揮することこそ求められていること、また、核のない世界を求めて闘いを続けてきた立場から、いまこそ全ての原発を停止し、廃炉にすること、エネルギー政策の抜本的転換を求める運動を大きく広げていくこと、そして労働者の生活と権利、平和と民主主義の実現にすべての労働者の団結を呼びかけ続けることを確認してきました。

例年通り、鍛冶橋コースと土橋コースのデモを貫徹し、原発を推進してきた経産省、東京電力に対して断固とした抗議を明らかにしたいと思えます。

震災を口実にした首切り・賃下げ・リストラ・内定取り消し、そして、派遣切りや有期雇用の雇止めなど、再び非正規労働者へのしわ寄せを許してはなりません。

メーデーは雇用形態を越え、民族・国籍を越え、国境を越えた労働者の国際連帯を実現する取り組みです。外国人研修生・技能実習生をはじめ移住労働者の権利確立、生活向上のために支援連帯を強め、労使対等原則が担保された多民族・多文化共生社会をめざしていきます。

第82回日比谷メーデーの成功に向け一人でも多くの仲間を集集をお願いいたします。

●第82回日比谷メーデー
5月1日(日)
開会 9時50分/デモ 11時
会場/日比谷野音楽堂

4月12日、南部権利春闘(南部全労協加盟組合と電検労とで構成)は春闘集会を開催しました。まず南部権利春闘共同代表の伊藤南部全労協議長による開会の挨拶から始まりました。震災の犠牲者に対する黙祷のあと「原発による事故は明らかに人災です。地震と津波によって原子力施設が破壊される可能性があることは何層も地元の人たちが心ある研究者によって指摘さ

るべきです。しかし、東電・政府は『想定外だった』と一言い訳を言っている。老朽化した原発や危険な原発が今も稼働している。これらを止める闘いを早急に行い、全ての原発を止めたいこと。そして、震災を口実にした解雇や派遣切り、内定取り消しが行われている。今必要なことは、生きていくための食料と住む場所・働く場所だ。今春闘の大きな闘いとして支援の闘いと表明されました。

40年間の労使紛争を解決した昭和シェル労組の滝委員長から勝利報告が行われました。「勝利したのは組合員の闘い、そして一人ひとりの組合員の闘いを支えた地域における共同闘争、自分たちの闘いだけではなく社会全体の闘いを闘ってきた。こうした闘いが勝利の大きな要因だ。」と決意を表明されました。



日比谷メーデーを成功させよう(昨年のメーデー)

この大震災を乗り越え、復興への原動力として、組織された労働者の団結した力を発揮することこそ求められていること、また、核のない世界を求めて闘いを続けてきた立場から、いまこそ全ての原発を停止し、廃炉にすること、エネルギー政策の抜本的転換を求める運動を大きく広げていくこと、そして労働者の生活と権利、平和と民主主義の実現にすべての労働者の団結を呼びかけ続けることを確認してきました。

例年通り、鍛冶橋コースと土橋コースのデモを貫徹し、原発を推進してきた経産省、東京電力に対して断固とした抗議を明らかにしたいと思えます。

震災を口実にした首切り・賃下げ・リストラ・内定取り消し、そして、派遣切りや有期雇用の雇止めなど、再び非正規労働者へのしわ寄せを許してはなりません。

メーデーは雇用形態を越え、民族・国籍を越え、国境を越えた労働者の国際連帯を実現する取り組みです。外国人研修生・技能実習生をはじめ移住労働者の権利確立、生活向上のために支援連帯を強め、労使対等原則が担保された多民族・多文化共生社会をめざしていきます。

第82回日比谷メーデーの成功に向け一人でも多くの仲間を集集をお願いいたします。

●第82回日比谷メーデー
5月1日(日)
開会 9時50分/デモ 11時
会場/日比谷野音楽堂